あらゆる所より、今日の『秩序』に対しての問いかけを!!学習会の提案

二月における試験によって、完全に大学側の秩序集約が成功したかに見える理支幕評であるが、しかしその中でも、日常性の中に押しこめられている数々の内闘が解決されないばかりか、増々総意義の中に激化する状況で存在している。

それは最も基本的な問いかけである今日の事務的な授業に対してであり、我々自身における69年中期以降よりなんら組織的な運動を組みえない我々内部の面程として、とらえかえして行くをのして存在している。

又日大全体として考えるならば、大情況へ保・冲締の中に斗争さ昇争することにおいて、小情況個別大学斗争、的要前主なんらなしえなかった日大全共斗の向程としてもとらえかえして行けるであろう。

我々砲党斜は69年中期以降よりなんら主体的活動を組えず略着とした日々を個人的活動の中に転嫁してしまったことを自己批判的に総括する中において、又今年新学年生に対する、あの爆発的68年日大斗争を肉体的に経験した最後の学年の責任性においても、日大斗争によって培われてきた理論の体系と、今日の局面を打開しうる手段を構築しなければならないと考える。

その一環として、69年度の我々の行動の総点検を行なうために、あらゆる方面へ個別日大的々方博・入皆来を前にする社会情況しよりの基本的な問いかけを「学習会」と言う形で開始して行きたいと思う。

ゆえにこの学習会自身単なる政治色がかったサークルに立ち入ることなく、より大衆的、行動的な要求と共に、創造的多様を持ったものとして展開して行きたいと考える。

今日の情況を考えて見ても、農獣医学部の小林講師に対する処分反対運動などのように、僅かな斗争の活動があるが、大局的には大学当局の一方的体制内化が強くて学生側のニヒル化、全般的膠着化現象など、決して主観的要素は多くない。

しかしながらあの爆発的日大斗争は、その背景に経済学部などの地味な活動があった事を見る時、斗争を内面より術陣する物として、この学習会が重要な位置を占めうるものと考える。

第一回　学習会準備会
時、二月二十七日・二十八日　十二時半より
所、七号館一階サークル室